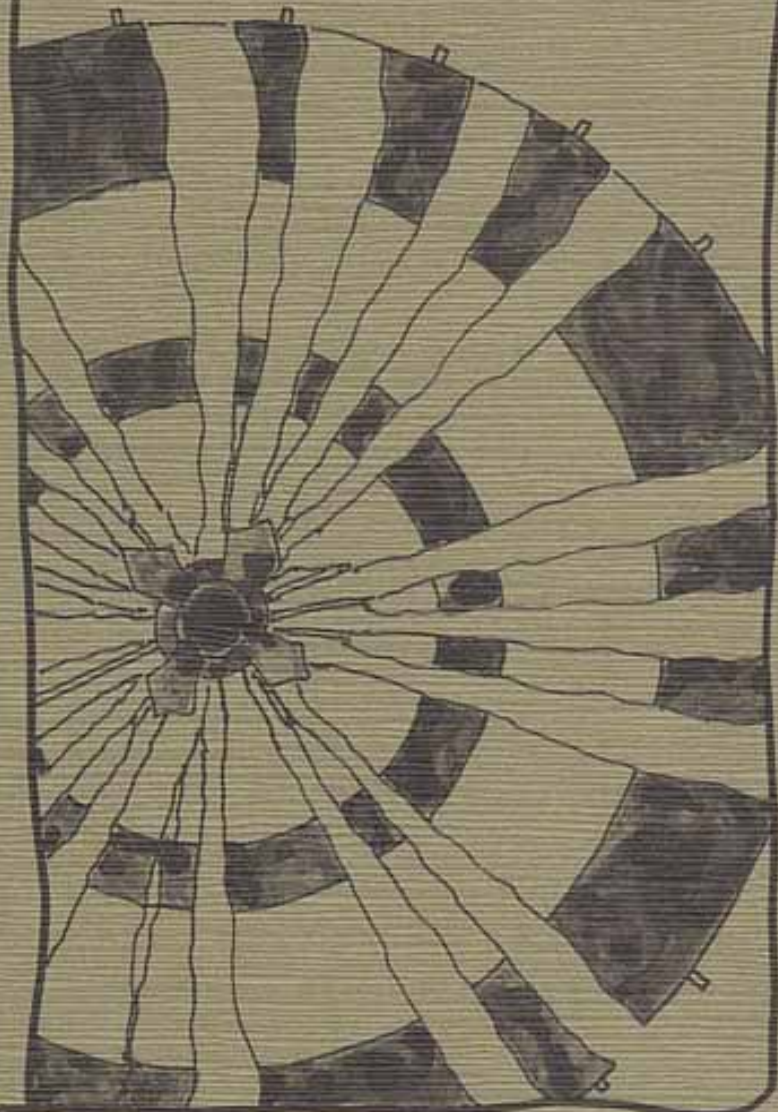


# やぶれ傘



一一六号  
二〇二〇年十月

芋の葉の傾くままに雨流し 根橋宏次  
 団栗の落ちたばかりの薄みどり 大島英昭  
 栗飯の栗を表に出して盛り きくちきみえ  
 秋風の頂上にまたひとり来る 白石正躬  
 菜園の茄子は大きく曲がりある 廣瀬雅男  
 蟬穴がずらり自転車仮置き場 渡邊孝彦  
 みてゐればゆるゆるほどけいわしくも 青谷小枝  
 八月は故人を想ふそんな月 正久保 勲  
 浄土へと妻戻りけり盆の月 瀬島酒望  
 鮑には梨一玉の重みかな 小山よる  
 むか床を出づる紫紺の秋の茄子 藤井美晴  
 朝顔が別れのやうにこのところ 安藤久美子  
 掛橋のかけ替へらるる竹の春 天野美登里  
 新道の途切れるところ葛の花 秋山信行  
 青風子はじやんけんをして別れ 有賀昌子

## 抄集句 傘 紀 崎 大

パン焼いて庭の紫蘇の葉添へて食ふ 松村光典  
 蟬時雨聞こえるときと聴くときと 武藤節子  
 花少し咲かせて秋の枝揺るる 村田 武  
 泊らずに子等帰りゆく盆の月 浅嶋 肇  
 殻はせる筵の上の新大豆 石塚清文  
 また一軒隣組減る蟬時雨 岩藤礼子  
 ゆつくりと池面に降りる蜘蛛の糸 神山市実  
 うろこ雲帰宅うながす子のメール 亀岡睦子  
 ファドを聴く夜溜少し後にして 木村瑞枝  
 夕風のころは金いろねこじやらし 倉澤節子  
 初ものの桃手のひらに載せてみる 小巻若菜  
 落ちさうな水玉とどめ蓮の葉 野口希代志  
 秋暑し子は浄土への道なかば 橋本美代  
 炎天下重機爪置く昼休み 広瀬 済  
 身にしむや早逝の子を語る兄 本郷美代子

増田裕司

梅雨晴間遠きにかすむ那須連山  
路地塞ぐビニールプール子等集ふ  
初物の枝豆つまみ手酌酒  
バイキング目を惹くものは新生姜  
那須の径しづくが光る岩桔梗  
暮らし方未だ定まらず秋暑し  
光りをり競りで高値の秋刀魚の目

松本善一

良く見れば葉に隠れをる青柚かな  
水遣りを終へしとたんの大夕立  
ヨハネスパウロ二世てふ札の薔薇  
お隣は在宅勤務茄子手入れ  
うなぎ屋のテイクアウトの店頭に  
初めての外出ビール缶捨てに  
舞鶴に帰還の電報虫干しす

箕田健夫

雨あとの蜜柑の花の白さかな  
ステイホーム昼寝をしたり本見たり  
あの年も晴天だつた終戦日  
夕暮の散歩の道に白芙蓉  
鈴虫の音の続きある夜の庭  
鈴虫のこゑの聞こゆる庭に出づ  
水割りも身に入む齢となりにけり

武藤節子

たたかねば開かぬ抽出梅雨深し  
風通すただそれだけの夏座敷  
なまぬるき風吹く夜の蚊遣り香  
糸とんぼチョンと水輪を作りけり  
木の瘤にとつじよ鳴き出す秋の蟬  
家中の壁にはりつく残暑かな  
蟬時雨聞こえるときと聴くときと

日 日 草 中 庭 広 き 公 民 館  
 秋 暑 し 隣 る 空 地 に 家 が 建 つ  
 稲 び かり 秩 父 の 山 を 照 ら し けり  
 花 少 し 咲 か せ て 萩 の 枝 揺 る  
 四 連 休 初 日 の 空 に 鱗 雲  
 新 生 姜 野 菜 売 り 場 に 山 積 み に  
 コ ス モ ス の 花 の 大 き な 勿 来 の 関

村田 武

欄 干 は か ら す の た ま り 梅 雨 曇 り  
 漬 物 に 刻 み て 添 へ る 茗 荷 の 子  
 初 蟬 の 鳴 く 公 園 は 門 閉 ざ し  
 蟪 蛄 は 構 へ る や う に 踏 ん 張 つ て  
 墓 参 り 終 へ て 鐘 撞 く 寺 の 昼  
 角 の 家 鈴 生 り の 青 蜜 柑 見 え  
 縁 石 に 沿 ひ 戦 ぎ ぬ ね こ じ ゃ ら し

森美 佐子

船 頭 と 釣 人 が 行 く 朝 曇 り  
 夏 空 へ 工 事 現 場 の ク レ ー ン 伸 び  
 団 十 郎 咲 か せ て 今 朝 の 朝 顔 展  
 天 守 閣 め ざ す 石 段 蟬 時 雨  
 手 に 触 る 物 み な 熱 き 広 島 忌  
 雲 ひ と つ 動 き 驟 雨 の き た り けり  
 郵便 物 届 く 音 す る 秋 隣 り

山本 久枝

黒 南 風 を 避 け 鉢 植 糸 は 庭 の 隅  
 雷 鳴 を 遠 く に 夜 半 の 雨 あ が る  
 窓 越 し の 苦 瓜 棚 の 実 を 数 へ  
 構 へ し 棚 に 位 牌 を 盆 の 入 り  
 赤 と ん ぼ 畑 の 柵 の そ の 先 に  
 用 水 の 水 面 か の す め る 銀 ヤ ン マ  
 旅 靴 が 部 屋 の 片 隅 夏 終 は る

湯本 正友

湯本実

林道に入ればすなはち蟬しぐれ  
夕立や流れ渦巻く暗渠口  
海の日の白帆ひしめく葉山沖  
紅付け孫は笑顔で初浴衣  
屋形船は出番なきまま秋暑し  
小流れの小岩の上に赤とんぼ  
散歩終へ冷えた西瓜にかぶりつく

吉田幸恵

麻ちぢみ袖に手を添へ箸を持つ  
岩肌を伝ふ滴りハンカチに  
向日葵の陽を跳ね返す高さかな  
朝顔のつぼみほどけて咲きにけり  
顔々のズーム飲み会秋暑し  
いつの間にか零余子ポッケに入り込み  
太刀魚の光り残して焼けにけり

浅嶋肇

青柿落つ今は使はぬ猫車  
滴りや溪に沿ひたる登山道  
片陰を縫うて病院まで歩く  
遠雷となりて枕を高くする  
金魚藻に頭隠して尾の見ゆる  
泊らずに子等帰りゆく盆の月  
仏壇にけん玉一つ盆の月

安齋正蔵

夏座敷胡坐正座の二人かな  
七夕や親指をつて句を詠んで  
竿燈をくの字腰にて立ちあげる  
生身魂柈目を漢字食み出して  
長き夜の最後の明かり消しにけり  
燈火親しむ辞書の切り口指垢に  
虫籠の中じつとみる阿弥陀帽

花とべらテトラポッドに波しぶき  
 敷き藁の上に転がるまくはうり  
 岩清水流れは清く濁りなし  
 穀はぜる筵の上の新大豆  
 早稲の秋豪農らしき門構へ  
 つくばひに落つる水音京の秋  
 鯛や街モノク口に変はりゆく

石塚清文

梅雨寒の河の流れのあらあらし  
 冷奴一口あとの箸進み  
 あふれ来て椋鳥は一樹に失せにけり  
 鳥威し鳴れど動かぬ雀ぬて  
 縁に掛け子らと剥きあふ衣被  
 入れ替はり鳥通ひ来る一位の実  
 桐一葉落ち行く先の定まらず

石原健二

竹竿で舟をあやつりうなぎ漁  
 滴りを見つけてザツク置きにけり  
 かなかなの突如なきやむ日の出前  
 車道まで伸びて南瓜の蔓轆かれ  
 カヤツクに羽根を休める赤とんぼ  
 何処から来しや浮き藻にきりぎりす  
 軽か鴨が二羽突如水面をたたきけり

泉 一九

虫干しや名札の残る古箏筒  
 萩はゆれ峠に休むツーリング  
 渋滞をぬけてライダーの夕  
 野面積み残す城址葛の花  
 台風一過空にくつきりカシオペア  
 法師蟬釣り人が谷渡りゆく  
 親方の見上げる先の松手入れ

稲田延子

岩藤礼子

また一軒隣組減る蟬時雨  
遠方の友より桃の届きけり  
用水の跡らしき道ねこじやらし  
神官の浅葱の袴初嵐  
初秋の枝の風鈴鳴りにけり  
ルーティンの復元図る秋半ば  
レシート裏のメモ消えみみず鳴く

江口恵子

炎昼の転寝五分スマホ鳴る  
短冊に願ひはひとつ星祭  
今朝もまた朝顔の花数へけり  
ウオーキングの足取り確か秋来る  
石垣の反りの鮮やか秋の空  
早朝の唐黍取りの音がする  
病室の窓辺に止まる秋の蝶

枝みや子

白壁に青サルビアは浮き立ちて  
涼風に一輪の花揺れてをり  
冷酒酌む父の形見の切り子かな  
手びさしで立話する西日中  
雨上がりがり蟬の鳴き声一斉に  
幼児が数珠を手にして秋の通夜  
迎へ火の残りの灰を雨流す

奥田温子

刈ればまた草伸びてくる夏の畑  
路地奥に竹刀振る声秋澄めり  
法師蟬の声は朝から通学路  
黒ねこの蟬を啣へて凱旋す  
猫たちの鳴き合ふ声や夜は長し

神山市実

まだ青きトマトに小さき顔寄せて  
雨あがる売地の札と草いきれ  
園児らの水鉄砲や声あがる  
ゆつくりと池面に降りる蜘蛛の糸  
古希にして初体験の冷やしあめ  
造成地に轍くつきり大旱  
ポツポツと雨降り出して涼新た

亀岡睦子

阿波踊り踊る義妹の足捌き  
かなかなの声を聞きつつ墓参り  
漫然とテレビ見てゐる秋湿り  
真夜中に思ひがけなく稲光  
賢治忌やよだかの星の彫刻碑  
うろこ雲帰宅うながす子のメー  
飛蝗の子大きく飛んで草叢へ

木村珊枝

サイダーの泡の音聞く昼さがり  
フアドを聴く夜濯少し後にして  
秋暑し阿修羅像まであと少し  
灯をともしもす岐阜提灯に皆寄りて  
恙なく御魂来たままふ盆の月  
門火消す残りし跡は黒黒と  
瓜の馬脚の長さを決めかねて

倉澤節子

道標に乗っかつてゐる油蟬  
炎天の坂自転車を押してくる  
生れ立てのトンぼが低く草にゐる  
夕風のころは金いろねこじやし  
桃の実のしたたる芯を吸ひにけり  
コスモスの一輪齒科の治療室  
小走りに渡る信号うろこ雲

## ◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	3日火	AM9:00	こなから会	あいソバル	WEP編集室
	3日火	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	4日木	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日金	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日金	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン6	秋山信行
	21日土	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	28日土	AM10:00	楽天会	あいソバル	廣瀬雅男
	28日土	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
12月	1日火	AM9:00	こなから会	あいソバル	WEP編集室
	1日火	PM6:00	うらら会	浦和コミセン1	大島英昭
	4日金	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日金	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山信行
	7日月	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	19日土	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	26日土	AM10:00	楽天会	あいソバル	廣瀬雅男
	26日土	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月20日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR京浜東北線・北浦和駅改札口。

吟行地はさいたま市・見沼。

句会場は浦和コミセン・第7集会室。

◎連絡先

秋山信行	☎ 048-874-0555	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856